

## ◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **A型肝炎**の報告が1例(40歳代男性)あり、症状は全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常です。本年の累積報告数は7例となりました。
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が1例(70歳代男性)あり、症状は発熱及び肺炎です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は32例となりました。
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が2例(80歳代及び90歳代男性)ありました。本年の累積報告数は39例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が1例(40歳代女性)あり、症状は発熱及び菌血症です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は68例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が1例(40歳代男性)あり、症状は硬性下疳及び鼠径部リンパ節腫脹です。感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は63例となりました。  
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
- ・ **百日咳**の報告が2例(10歳代女性2例)(第48週追加報告分含む)あり、症状は持続する咳等です。いずれも、感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は110例となりました。

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

京都市のインフルエンザの定点当たり報告数は12.75(880例)となり、前週の5.74(396例)から倍増し、注意報レベルである「10」を上回りました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 4例(肺結核 1例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 317例(肺結核 140例, その他結核76例, 潜在性結核感染者 101例)うち喀痰塗抹陽性 66例】
- ・ 四類: A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- ・ 四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 32例】
- ・ 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 39例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 68例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 63例】
- ・ 五類: 百日咳 2例【1月以降の累積報告数 110例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	12.75	880
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.60	241
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.16	93
	③ 水痘	0.88	38
	④ 伝染性紅斑	0.44	19
	⑤ 咽頭結膜熱	0.42	18
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

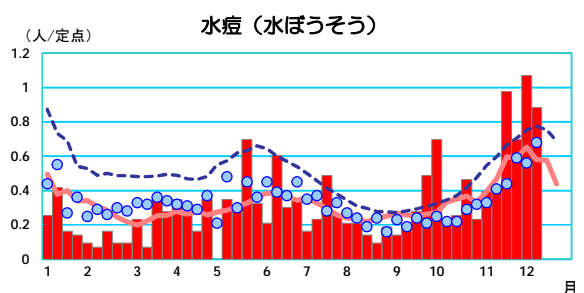
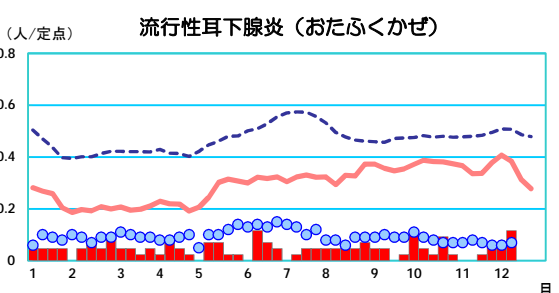
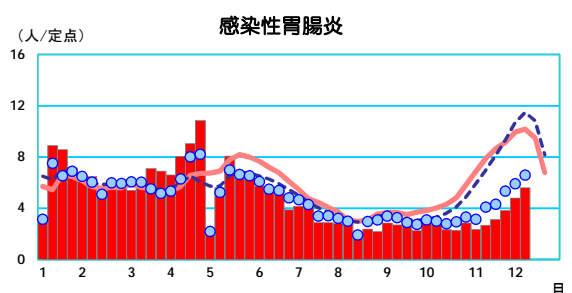
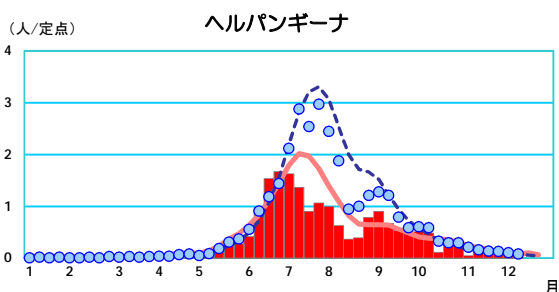
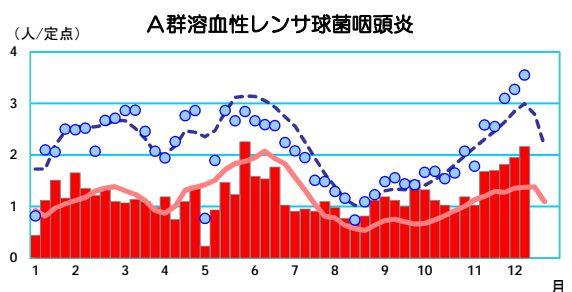
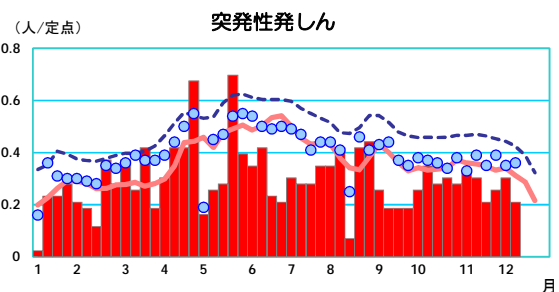
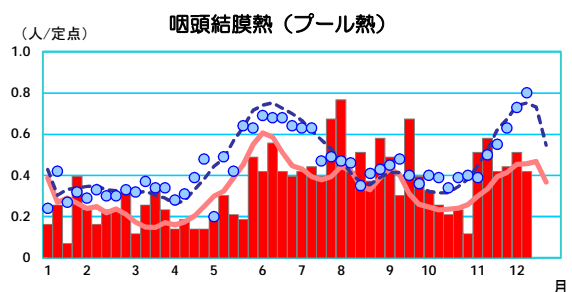
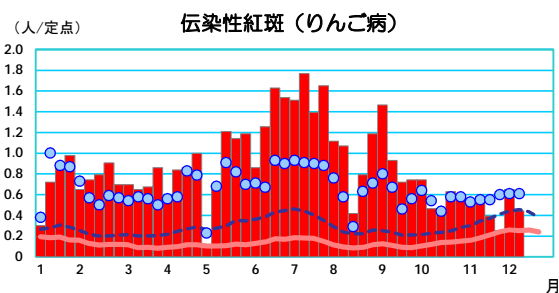
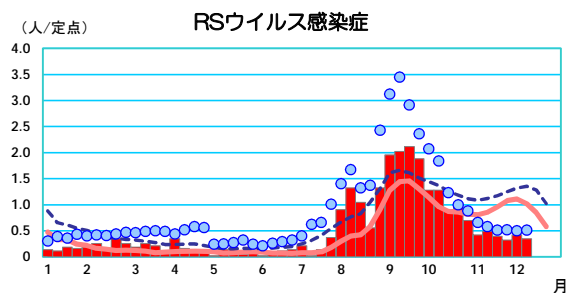
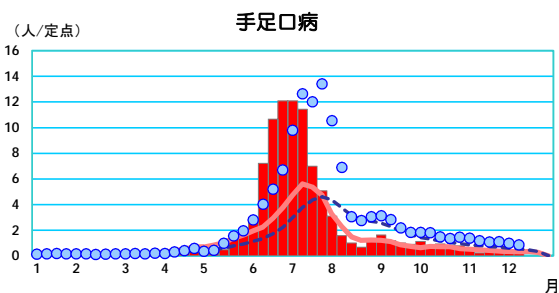
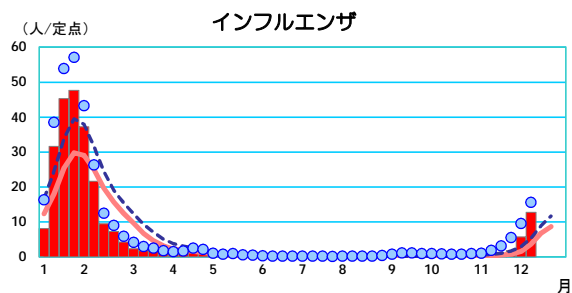
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年12月18日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



# 第50週(12月9日～12月15日)トピックス: <インフルエンザ>

京都市のインフルエンザの定点当たり報告数は12.75(880例)となり、前週の5.74(396例)から倍増し、注意報レベルである「10」を上回りました。全国でも前週の9.52から、今週15.62に増加し、本市同様に注意報レベルを超えました(図1)。

注意報レベルを超えた後の動向について、京都市の過去5シーズンの流行状況を見ると、例年、注意報レベルを上回った後、報告数は下がることはなく、さらに増加し、シーズンにより差はあるものの、概ね1～3週間程度で流行のピークに達しています。また、ピークに達した後は、注意報レベルの「10」を下回るまで3週から8週と長い期間報告数の多い状況が続いています(表1)。今シーズンも同様の経過となるのが予想されます。手洗いの励行や人混みをなるべく避ける、十分な睡眠・栄養を取るなどの予防策の徹底と、咳エチケット(咳、しゃみをするときは、ティッシュ等で口と鼻を覆う、マスクを着用する。)を実践し、流行の拡散を防ぐよう努めてください。

なお、全国で検出されたインフルエンザウイルスの型別割合を、今シーズンと昨シーズンの同時期と比較すると、昨シーズンはAH1pdm09型以外にも、A(H3)型が10%～40%程度の割合で検出されていましたが、今シーズンはこれまでのところ、AH1pdm09型が大部分を占める状況となっています(図2)。

このほかのインフルエンザ発生状況の詳細や予防対策については下記URLを御参照ください。

○インフルエンザの発生状況(衛生環境研究所ホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

○インフルエンザの発生状況について(健康安全課のホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000051303.html>

図1 本市及び全国の定点当たり報告数の推移

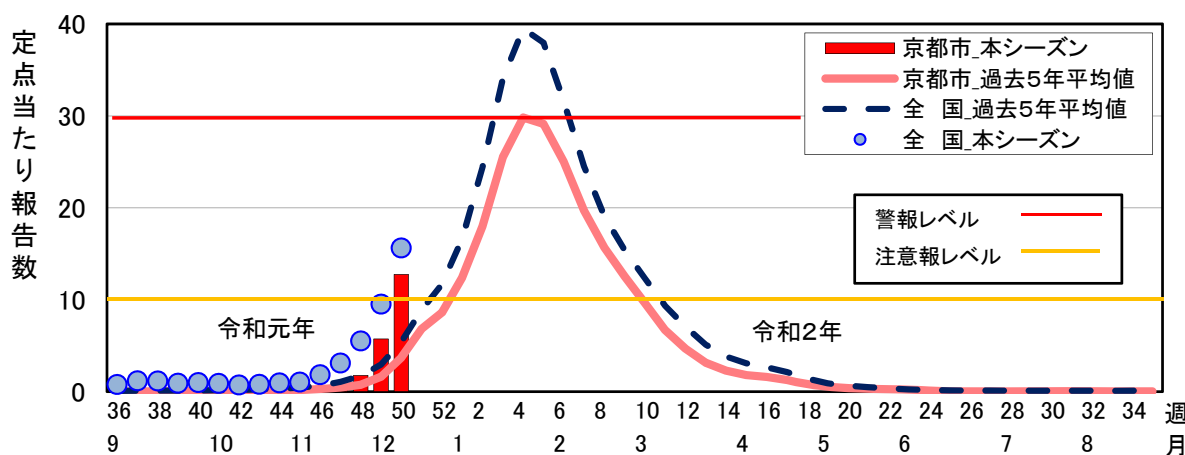
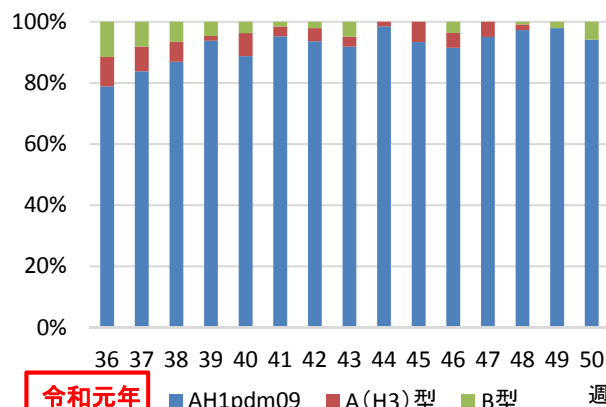
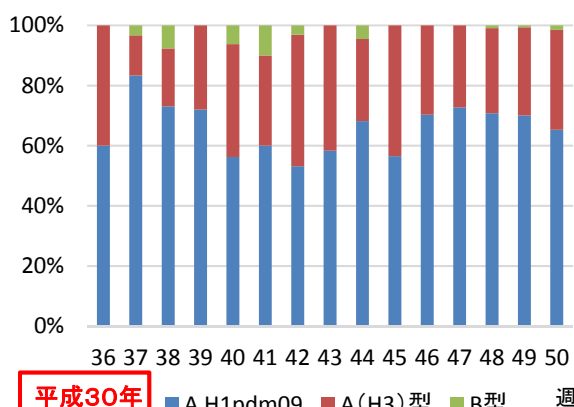


表1 京都市の過去5シーズンの流行状況

シーズン	H26/H27	H27/H28	H28/H29	H29/H30	H30/H31	R1/R2
「10」を上回った週	第51週	第4週	第2週	第52週	第2週	第50週
ピーク時の週	第52週	第7週	第5週	第5週	第4週	
「10」を上回ってからピーク時までの期間	1週間	3週間	3週間	5週間	2週間	
「10」を下回った週	第7週	第12週	第13週	第10週	第7週	
ピーク時から「10」を下回るまでの期間	7週間	5週間	8週間	5週間	3週間	

図2 全国のインフルエンザウイルス検出割合(平成30年及び令和元年:第36～50週)(2019.12.19現在)





京 都 市 感 染 症 発 生 動 向 調 査 情 報

集計対象:2019年第50週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年12月9日～2019年12月15日

データ入手日:2019年12月18日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	65歳－	70歳以上				
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	880	－	8	30	31	25	49	48	45	81	68	43	208	28	43	36	73	27	12	17	8
RSウイルス感染症	年齢3	15	4	3	5	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		18	－	1	3	3	6	1	2	2	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		93	－	1	5	4	6	7	18	13	6	8	8	12	2	3						
感染性胃腸炎		241	2	11	41	34	30	20	12	19	11	11	9	19	1	21						
水 痘		38	－	－	4	5	5	4	2	2	4	2	4	3	2	1						
手 足 口 病		15	－	－	9	1	－	1	2	－	1	1	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		19	－	－	－	2	4	7	3	1	1	1	－	－	－	－						
突発性発しん		9	－	5	3	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		5	－	－	－	1	－	3	－	－	－	－	－	1	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	65歳－	70歳以上				
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	12.75	－	0.12	0.43	0.45	0.36	0.71	0.70	0.65	1.17	0.99	0.62	3.01	0.41	0.62	0.52	1.06	0.39	0.17	0.25	0.12
RSウイルス感染症	年齢3	0.35	0.09	0.07	0.12	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.42	－	0.02	0.07	0.07	0.14	0.02	0.05	0.05	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.16	－	0.02	0.12	0.09	0.14	0.16	0.42	0.30	0.14	0.19	0.19	0.28	0.05	0.07						
感染性胃腸炎		5.60	0.05	0.26	0.95	0.79	0.70	0.47	0.28	0.44	0.26	0.26	0.21	0.44	0.02	0.49						
水 痘		0.88	－	－	0.09	0.12	0.12	0.09	0.05	0.05	0.09	0.05	0.09	0.07	0.05	0.02						
手 足 口 病		0.35	－	－	0.21	0.02	－	0.02	0.05	－	0.02	0.02	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		0.44	－	－	－	0.05	0.09	0.16	0.07	0.02	0.02	0.02	－	－	－	－						
突発性発しん		0.21	－	0.12	0.07	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.02	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.12	－	－	－	0.02	－	0.07	－	－	－	－	－	0.02	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	0.10	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第50週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年12月18日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		32	38	67	122	396	880
RSウイルス感染症		18	21	17	14	18	15
咽 頭 結 膜 熱		22	25	18	19	22	18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		44	72	73	78	84	93
感染性胃腸炎		101	115	135	165	207	241
水 痘		17	17	42	30	46	38
手 足 口 病		22	9	13	16	20	15
伝 染 性 紅 斑		22	25	17	11	28	19
突発性発しん		14	13	9	11	13	9
ヘルパンギーナ		2	5	6	3	3	1
流行性耳下腺炎		－	－	1	3	3	5
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	1	2	2	2
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		294	340	399	474	842	1,336

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		0.46	0.55	0.97	1.77	5.74	12.75
RSウイルス感染症		0.42	0.49	0.40	0.33	0.42	0.35
咽 頭 結 膜 熱		0.51	0.58	0.42	0.44	0.51	0.42
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.02	1.67	1.70	1.81	1.95	2.16
感染性胃腸炎		2.35	2.67	3.14	3.84	4.81	5.60
水 痘		0.40	0.40	0.98	0.70	1.07	0.88
手 足 口 病		0.51	0.21	0.30	0.37	0.47	0.35
伝 染 性 紅 斑		0.51	0.58	0.40	0.26	0.65	0.44
突発性発しん		0.33	0.30	0.21	0.26	0.30	0.21
ヘルパンギーナ		0.05	0.12	0.14	0.07	0.07	0.02
流行性耳下腺炎		－	－	0.02	0.07	0.07	0.12
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	0.10	0.20	0.20	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		6.56	7.57	8.77	10.11	16.26	23.51

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。